

在宅医療でよく行う医療手技を再考する！

胃瘻・経鼻胃管・点滴・吸引・尿カテ・気管カニューレのすべて

©へるす出版

はじめに

在宅医療の場で日常的な医療処置(手技) をあらためて見つめ考えるために

荻野美恵子 Ogino Mieko

(国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター教授)

従来病院医療で行っていたさまざまな医療処置(手技)は、在宅医療の場でも行われるようになってきました。経管栄養や点滴はもちろんのこと、酸素投与、人工透析、人工呼吸なども在宅で行われています。しかし、それぞれの医療処置を在宅というセッティングで安全に行うには、さまざまな工夫が必要です。また、次々と便利な医療材料も開発されています。

本特集ではこれまでも行ってきた医療処置について、あらためて在宅医療ならではの特徴や安全管理、最新技術や手法、新製品などをご紹介します。習慣的に行ってきたことの意味やちょっとしたティップスを知っていることで、見直すきっかけになるかもしれません。在宅初学者にも、ベテランの方にも参考になるような特集を目指しました。

項目としては比較的頻度の高い、経管栄養(胃瘻、経鼻経管栄養チューブ)、点滴(末梢点滴、皮下注射、中心静脈栄養、ポート、PICC、ポンプ)、その他(吸引、尿道留置カテーテル、気管カニューレ)を取り上げ、また、それらにまつわる診療報酬についても説明していただきました。なかには保険適用になっていないながら、実際の臨床場面では用いられることのある医療処置にも言及していただいております。在宅での有効性と安全性の検証と保険適用の拡大も、今後取り組まなければならない課題です。明日からの在宅診療の役に立つ特集となっていれば幸いです。